

I 「さて」の意味。原語：ウーン。「従って、だから、それで」の意。

同じ原語→「そういうわけですから」（ローマ12：1）。

これは、前半、エペソ1－3章（救いの教理・神の驚くべき救いの恵み・先行する神の恵み）と後半、4－6章（実践、神の驚く恵みへの応答）のつなぎの非常に大切なみことばです。

口語訳聖書「こういうわけで」、詳訳聖書、新共同訳聖書「そこで」、ほとんどの英語の聖書の訳「Therefore」（それゆえ）。

聖書の中で、「それゆえ」「そこで」「そういうわけですから」ということばに出会ったなら、常に特別の注意を払うべきです。というのは、

ある目的の「ために」（for）そこにある（there）のだから。この大切な順序、つなぎのことばは、他の書にもある。

ローマ人への手紙：前半の1－11章（人間の罪とその罪人である私達を救われる神の救いの教理、父・子・聖霊なる神の先行する驚くべき恵み＝キリストによる贖い、罪の償い、滅びからの買戻し、信仰による義認、キリストとの霊的な結合、御霊なる神の内住と御霊による新しい歩み、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された神の愛、イエスにある神の愛から、私達を、何ものも引き離すことができない神の愛）。12－16章は、神の驚くべき恵みに応答しての実践。

そのつなぎの御言葉は、12：1にある「そういうわけですから」＝「こんなに神に愛され、神の驚く恵みを受け続けているのですから」その恵みに心から感謝して、神の喜ばれる歩みをしましょう！ガラテヤ人への手紙3章と4章が神の救いの教理、神の先行する恵み、その後、5、6章で神の恵みへの応答の実践。つなぎの御言葉の5：1にも「ですから」がある。

コロサイ人への手紙では、1章－2：5までが、神の救いの教理、神の先行する恵み、2：6から4：18は、神の恵みに感謝しての応答の実践。

そのつなぎとなる2：6に「ですから」（ウーン）がある。

今、講解説教をエペソ人への手紙も同じである。前半の1－3章は、私達人間の罪（2：1－3）と私達罪人を救う神の救いの教理、神の先行する驚くべき恵み、父なる神の祝福、神が私達を救いに選んでくださった恵み、主イエスの十字架の血の恵みによる私達の数えきれない罪の赦し、聖霊なる神による私達の救いの保証。後半の4－6章は、先行する神の恵みへの感謝から生まれる新しい歩み、実践、神の喜ばれる歩み。そのつなぎのことばが、「さて」、原語では、「ウーン」、つまり、「そういうわけですから」＝こんなに神に愛され、罪の滅びから救われ、神の驚くべき恵みを受け続けているのですから。

II つなぎの御言葉（原語：ウーン、それゆえ、そうわけですから）と罪と神の救いの教理、

神の恵みが先で、その後、恵みへの応答としての実践が聖書の順番である事から教えられる事。

1. 洗礼準備や転入の学びのテキストの順番が教えられる。最初テキストは、「神・罪・救い」を学ぶ教理、神の救いの恵みの学び。次に、神の恵みへの感謝の応答としての信仰生活、教会生活、社会生活の学び。聖書の順序に従って。
2. 洗礼、転入後も、この順序を忘れず学び続ける。※教理、恵みから実践、そして実践から教理に戻

り、深く学び、また実践へ遣わされる。恵みから実践へ、実践しつつ、足りなさを知り、基本、恵みに立ち返り、また深く（正しい知識、教理・恵みと実践を切り離さず）学び、実践し、成長し続ける。

※先行する神の恵みを味わわない実践、信仰生活は、だんだん重荷となり、恵みのない律法主義となる。いつも先行する恵みを味わいたい！

3. 神が与えられた66巻の聖書の順序を大切に読み味わう。聖書の通読を大切にする。

「ですから」や「そういうわけですから」の接続詞、前後関係を大切に読み味わう。

Ⅲ 神の驚くべき恵みを味わい、自覚した者の神への応答

「主の囚人である私

（主に捕えられ救われ、主の召しに従って福音に仕え、獄中にあるパウロ。

主の召しに従う故に獄中にいても、主に愛され主の愛を深く知り続け、

神の満ち満ちたさまに変えられ続けているパウロ）

はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい」：1。

「召す」の原語の意＝呼ぶ、呼び寄せる、呼び出す、呼び集める、招く。神は、私達を救いに招き、世から呼び出された。感謝します。

「あなたがた」＝教会＝クリスチャンの集まりそのもの。神の召しの目的は、私達を救い、キリストにつながる一つのからだである教会とし、教会が神の栄光を現わす事。「主の祈り」の最初の祈りも「御名があがめられますように」。次に「みこころが行われますように」。

神が喜ばれる応答は、教会としても、個人としても、まず、神の大きな愛、神の驚くべき恵みを知り続け、味わい続ける事です。その溢れる神の恵みに感謝し、神を崇め、賛美し、礼拝し、日々、神のみこころを伺い、祈り求め、神の喜ばれる事を選び取って歩む事です。神の恵みを数え感謝し、神の喜ばれる事、御心を知り、行えるように祈りましょう。